

冬季講習

【必修領域】 「全ての受講者が受講する領域」

講習番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	受講人数
A06	教育の新動向	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)」 「子どもの生活の変化をふまえた課題」の4つの事項についての理解を深めることを目指す。	福島 裕敏(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 松本 大(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授) 桐村 剛文(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 講師) 吉中 淳(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 田名場 忍(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 安達 知郎(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授) 松田 侑子(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 講師) 中山 忠政(教育研究院人文社会・教育学系社会科学領域 講師) 増田 貴人(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授) 大海 丈久(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授) 武内 裕明(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授) 野崎 茉莉(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 講師) 小玉 有子(弘前医療福祉大学 保健学部 教授) 平岡 恭一(弘前医療福祉大学 短期学部 教授)	弘前市	2019年12月26日	6時間	全教員	100人

【選択必修領域】 「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」

No.	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	職務経験等	受講人数
B11	教育課程・学校経営	「学習指導要領の改訂の動向等」および「様々な問題に対する組織的対応の必要性」の事項について、各校種や教科の教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	森本 洋介(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 講師) 三上 雅生(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 石戸谷 繁(東北女子大学 教授) 宮崎 充治(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授)	弘前市	2019年12月27日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	特定しない	100人
B12	第二言語習得研究と小学校英語教育	ヒトはどのようにして母語以外の言語を習得・学習するのか、そのメカニズムの解明を目指す第二言語習得研究の諸理論及びそこで得られた知見を基に小学校における外国語活動・外国語科の授業における教授・学習行為を見直し、我が国における小学校英語教育のあり方を検討する。	野呂 徳治(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授)	弘前市	2019年12月27日	6時間	教諭	小学校教諭	特定しない	30人

【選択領域】 「受講者が任意に選択して受講する領域」

No.	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C58	社会・地歴・公民・商業	今日の社会と社会科授業	児童・生徒を取り巻く生活環境や社会の状況がめまぐるしく変化する中において、社会科の授業はどのようにあるべきなのか。今日求められている社会科の役割、授業のあり方について理論的な側面と実践的な側面の両方から検討していく。講習の中では、受講者が抱える授業に関する課題や率直な悩みを取り上げつつ改善の方向性を探っていく。	篠塚 明彦(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 小堀 史朗(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授)	弘前市	2019年12月14日	6時間	教諭	小学校、中学校(社会科)教諭	25人
C60	理科	海を学ぶーウニの発生実験とホタテガイの解剖(観察実験)	我が国は四方を海に囲まれ、私たちの生活は海と切り離すことは出来ない。様々な方面から海を学ぶことは重要で、本講習は生物学の専門外の方々も、海を理解することで海に関わる実践教育が出来ることを目指す。この中で、入手の容易な海産動物であるウニを用いた受精及び初期発生の実験と、食材でもなじみ深い二枚貝の仲間ホタテガイの解剖を通じて、海の生き物に関する関心と知識を増すことを目的とする。	大高 明史(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 経塚 啓一郎(東北大学大学院 生命科学研究所 客員研究員)	青森市	2019年12月15日	6時間	教諭	小・中・高等学校理科教諭	15人
C64	理科	化学実験ー中学校・高等学校を中心に	中学校理科および高等学校化学の新学習指導要領に沿って、新たに加えられたり戻された学習項目を中心に、実験を通して理科の化学分野の指導法を考える。また発展的な実験も行い、化学教材について学習する。具体的には、例えばイオンの実験や、モル概念の実験などを行う。次期学習指導要領で導入される「アクティブ・ラーニング」への活用も考えられ、特別支援教育で注目されている「マイクロスケール実験」について、その概念と具体的な方法について実験を通して考える。	長南 幸安(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 島田 透(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 講師)	弘前市	2019年12月25日	6時間	教諭	特別支援教諭、小学校教諭、中学校・高等学校理科教諭	30人
C59	理科	【選択】太陽電池を通して見る光と電気	太陽電池は、可動部を持つことなく光エネルギーを直接的に電気エネルギーへと変換することができる素子です。本講習では太陽電池の原理と最新の動向を学びます。また、簡単な色素増感太陽電池を実際に作製し、光と電気の関係性について体験的に学習します。	渡邊 良祐(教育研究院自然科学系機能創成科学領域 助教)	弘前市	2019年12月14日	6時間	教諭	中学校・高等学校理科教諭、理科を担当する小学校教諭	10人
C62	保健体育	体育を苦手と感じる教員の授業組み立て法	なぜ、体育授業を苦手と感じているのか。どうしたら価値ある授業を提供できるのか。45分間の授業と単元における「体育授業の組立て方」を学ぶ内容です。具体的には以下の5つです。 ①小学校の体育授業が目指すもの、最新の体育科教育の動向 ②安全と学習規律の確立法 ③意図的な手立てと、柔軟な対応の仕方 ④1時間レベルと単元レベルの授業組み立て法と、指導案作成のポイント ⑤授業評価の仕方と活用	上野 秀人(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授)	弘前市	2019年12月21日	6時間	教諭	小学校教諭	20人
C63	看護	放射線とリスクコミュニケーション	本講では放射線災害を想定し、地域住民や学校生徒・保護者に対して説明する機会を持つ教諭を対象として、放射線リスクコミュニケーションの基本的知識を教授し、事例をもとにした演習を通し放射線リスクコミュニケーションの必要性を以下の内容で意識づける。 1. 講義「放射線リスクコミュニケーションについて」(則包) 2. 講義「放射線の人体に対する影響と防護について」(對馬) 3. 演習「リスクコミュニケーションに関するシミュレーション」(則包、北宮、對馬)	則包 和也(教育研究院医学系保健科学領域 准教授) 北宮 千秋(教育研究院医学系保健科学領域 教授) 對馬 恵(教育研究院医学系保健科学領域 講師)	弘前市	2019年12月25日	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教諭	30人
C57	技術・工業・農業	小中学校教員のためのプログラミング入門	本講習では、プログラミングに関する学習経験の無い教員および学習経験の少ない教員を対象として、プログラミングとはどのような行為か、プログラムによってどのようなことができるのかといったプログラミングの基礎について、教育用のプログラミング言語を用いて体験的に学習する。	櫻田 安志(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授)	弘前市	2019年12月14日	6時間	教諭	小学校・中学校(技術科)教諭、特任教諭	10人
C61	技術・工業・農業	幼児教育・保育における木製遊具の活用	幼児教育・保育における積み木を中心とする木製遊具の有効性について理解を深めるとともに、幼児教育・保育で活用できる木製遊具に関する基礎的な知識と技能、指導法を学習する。具体的には理論に関する講義と木材を用いた遊具を構想・製作し、それらの活用方法について発表する。	上之園 哲也(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 教授) 廣瀬 孝(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 講師)	弘前市	2019年12月21日	6時間	教諭	幼稚園教諭	8人
C67	技術・工業・農業	小中学校教員のためのプログラミング入門	本講習では、プログラミングに関する学習経験の無い教員および学習経験の少ない教員を対象として、プログラミングとはどのような行為か、プログラムによってどのようなことができるのかといったプログラミングの基礎について、教育用のプログラミング言語を用いて体験的に学習する。	櫻田 安志(教育研究院人文社会・教育学系教育・芸術領域 准教授)	むつ市	2020年1月12日	6時間	教諭	小学校・中学校(技術科)教諭、特任教諭	10人

No.	教科	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	対象職種	主な受講対象者	受講人数
C65	特別活動	特別活動(小学校編)	人のつながりの中で、不安や葛藤をのりこえ、次の第一歩を踏み出す児童生徒を育てるために、特別活動の再構築が強く求められている。自己責任だけが一人歩いている現状を見直し、スキルやメソッドに依存しない集団作りを、実践的な演習を通して考察を深める。結果として学力をおしあげ、いじめや不登校のおきにくい学級、授業集団、学年・学校集団を育てる四本の柱を確かめる。	山科 實(弘前大学教育学部特任助教)	弘前市	2020年1月7日	6時間	教諭	小学校教諭	50人
C66	特別活動	特別活動(中学校・高等学校編)	人のつながりの中で、不安や葛藤をのりこえ、次の一歩を踏み出す児童生徒を育てるために、特別活動の再構築が強く求められている。自己責任だけが一人歩いている現状を見直し、スキルやメソッドに依存しない集団作りを、実践的な演習を通して考察を深める。結果として学力をおしあげ、いじめや不登校のおきにくい学級、授業集団、学年・学校集団を育てる四本の柱を確かめる。	山科 實(弘前大学教育学部特任助教)	弘前市	2020年1月9日	6時間	教諭	中学校・高等学校教諭	50人